

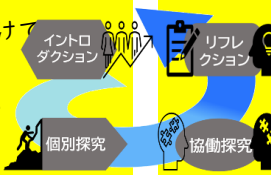
令和7年度 南小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

実態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇児童アンケート・教職員アンケートの結果から、「素直である。」「相手を見て話を落ち着いて聞く。」「自分でやると決めたことをやり遂げたいと思う。」の項目における肯定的回答が高く、課題を自分事として捉えて学びに向かう学習の充実を推進した成果が見られる。	◇指示されたことは素直に取り組む一方で、自分から動くことに苦手意識があると子ども自身も教職員も感じている。 ◇授業では、子どもたちが伝え合う場を積極的に設定するよう意図しているが、子どもたちの実態として、伝えることに消極的になっている子がいたり、伝え合うこと自体の目的や価値の理解に実感を伴っていなかったりする場合がある。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の態度〉の現状と課題	
	◇上記の通り、指示された課題や活動には素直に取り組むことができるが、自ら問いや課題をもってそれを追究しようとする意欲が低い児童がいる。 学び合う価値を実感しながら主体的に友達と関わり、学びを深め合おうとする意欲を高めていきたい。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

主体的に学び、自己価値を高めていく力

取組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇研究副主題「他者と関わり、深め合うことで自己を認める授業」の実現 資質・子どもが問いをもち、自信をもって他者と積極的に関わり、自己価値を高めていく姿をねらった学習の工夫 ・子ども自身・友達・教師の三つの視点による子どもの学ぶ姿を価値付けて 能力・子どもが問いをもち、それを他者との関わりの中で解決したり、追究したりする力の育成 ・新しい課題に向かう意欲の向上をねらった教材化や学習展開の工夫 	◇自信をもつ姿と、安心できる所属感をあいさつでつなぐ ・全校児童が交代で挨拶活動等を行い、日常的に子ども同士のつながりを育み自ら生活の向上を図ることができる力を育む。 ・成功体験だけでなく、失敗も体験することにより、困難を乗り越えていける力（レジリエンス）を育む。

〈本プログラムの実行に向けて〉

